

# 校内研だより



令和4年4月18日(月)  
研究推進部  
No.4

## 1 第0回校内研究会を終えて

「私たちは、どのようなつながりがあるのだろう。」

初日から時間をいただきましたので、早速、対話の会を開きました。表面上だけの理解ですと、必ずズレが出てきます。忙しい中では、ありますが、ナラティブ（自分の物語）な部分を共有することで、質が上がっていきます。このような活動を研究主任は「根っこを揃える」と呼んでいます。今年度も対話を大切に、教育活動を進めていきましょう。



## 2 第1回校内研究会を終えて

### (1) 対話①



「どんな校内研究にしたいですか？」

毎年お馴染みのチェックイン。授業をすることが、校内研究の目的ではありません。研究だけでなく修養の部分も大事にしていきたいところです。校内研究は「場づくり」「関係づくり」「仲間づくり」の場として、対話をベースにしながら進めていきたいと思っています。子供たちに対話を求めるなら、まずは、自分たちから楽しめるといいですね。分かりやすく、楽しい、そんな校内研究になるように努力していきます。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

### (2) 問題解決的な学習について

#### ○つかむ

- ・「事実」「疑問」(学習問題)「見通し」(学習計画)をつかむ。

#### ○調べる

- ・学習問題を解決するための「事実」を調べる。
- ・資料(教科書、資料集、D教科書、クロームブックなど)を使って調べる。
- ・校外に見学(観察や調査)に行き調べる。
- ・調べた事実を基に考える、交流する。

#### ○まとめる

- ・調べた事実を可視化(図や作品など)する。
- ・学習問題に対して、「事実」と「考え(事実に対する意見)」をまとめる。

#### ○つなぐ

- ・学んだことを生かして、より良い社会について、考える、話し合う。
- ※別の角度から、価値を「選択」したり「判断」したりする。

学習問題を  
つくって

調べて

学習問題を  
解決する

☆教科書やDコンテンツでも説明がありますので、参考にしてください。  
☆黒板掲示のデータは、研究のフォルダにあります。

(3) ぶりかえりの横断的な活用について

- ①知った事実について「分かったこと」
- ②知った事実について「分からなかったこと」
- ③事実を知った上で「考えたこと」

- ④自分の学びのプロセス
- ⑤心で感じたこと（ワクワクした、つまらなかった、など。）

～ ぶりかえりの問い ver1.0 ～

☆今回の学びについて自分は…

- ①何が分かったか
- ②何が分からなかったか
- ③何を考えたか
- ④どう学んだか
- ⑤どう感じたか
- ⑥どうしたかったか
- ⑦次どうすればよいか
- ⑧別の方法はなかったのか
- ⑨そもそもどうということなのか

感想ではなく、次の自分の学びにつながるように自分と向き合しましょう！



- ⑥その時間にやったことを基に本当は「どうしたかったか」
- ⑦⑥を基に「どうすればよいか」

- ⑧⑨授業の前提や枠組みがどうであったか

☆感想☆

☆次の学びに生かせるように。

☆他教科等や、行事等でも使えるように。

☆各学年で使えそうなものを選んだり、付け足したりする。

☆黒板掲示のデータは研究のフォルダにあります。

(4) 対話②

「2年後、私たちは何を発信できるのだろう」

研究主任の無茶なフリに対しても、真摯に向き合い、考えてくださる一小的教職員集団は、本当にすごいと思います。社会科の大会ではありますが、僕らの強みは、もっと違うところにあるはず。それを自覚しながら、さらに強くしていけるとよいと思っています。意識することで、指導もより良くなっていくはず。忘れた頃にまた、聞く…かもしれません。



(4) 小倉先生より

小倉先生からも、たくさんの価値付けと、たくさんの課題をいただきました。年度末に少しでも答えられるようにしていきます。

※資料参照



4/7(木) 校内研全体会

① どんな校内研にしたいか？

③年 教師が教科が好きになる → 教材研究  
楽しんで = 子供が成長する姿をイメージ

①年 子供の表現力を高める

⑥年 分かる研究 教師にとり？？  
関わり合い ⇒ フェシリター・話し型  
楽は = 教材研究  
分かるようになった！  
互いに協力(人間関係)

④年 どの子供も分かる授業

⑤年 分かる研究 = 楽しめる  
↑ 意見を出しやすい雰囲気  
学校全体……たのびなびと意識  
社会 ↔ 他教科  
つながり

⑦年 梅の実の学習の仕方と共通理解 通報とのつながり  
(体験 - 考察 - 検証 - まとめ)

②年 協力して作り上げる 社会科 - 生活科  
小金井のよさを伝える 7年ぶり

② 一小的の強み

①年 子供の思考力(高) 表現力 教師力

②年 子供の質(高) 教員の心(助け合い)

③年 プラッジアプした研究……大人の力 → 子供の力up

④年 職員室の雰囲気 → 研究の共通理解  
一人一人の個性・力

⑤年 話し合う力・姿(子供)  
。問いのワ、ぶり返りの姿(ぶり返りの問い)

⑥年 子供が話し合う主体的な姿

⑦年 子供が自分事として捉える姿  
主体性・社会とつながり

### 3 指導案の形式

○今年度出された都小社研のバージョンを使ってB部会で話しあいました。

- ・小単元の構想については、簡略化する。
- ・小倉先生から提案のあった「教材の強み」を入れる。
- ・5月20日の授業の指導案をこの形で作ってみます。

### 4 その他

☆振り返りについて学年で話してみてください。

☆研究は基本的に「ペーパーレス」です。転入の方々は、自分のIDが手に入ったら笠原に声をかけてください。

☆5月20日(金) 研究授業(5年1組) **研究だより**⑥

☆ 23日(月) 研究主任会

☆ 31日(火) 指導案検討(6年生)